

# 河州古橋大工組における入り込みについて

植松清志・若林 努・谷 直樹

On the Irikomi of the Furuhashi carpenter's party in the Kawachi country.

KIYOSHI UEMATSU, TSUTOMU WAKABAYASHI and NAOKI TANI

## 1 はじめに

本研究は、中井家が支配した五畿内近江の大工組における入り込みの実態を明らかにしようとするものである。

入り込みとは、「組大工の持場所へ他の組大工が立入り職仕事を請負う」<sup>1)</sup>ことで、これを分析して、大坂<sup>2)</sup>や京都<sup>3)</sup>における大工組の協定、出入場の状態、大工替えなど、さらに在地における集住大工の活動<sup>4)</sup>や一工房の営業形態<sup>5)</sup>など、多くの事実が明らかにされている。このように、入り込みを分析することにより他組大工などの出稼ぎ状況、出入場、組内大工の活動などさまざまな事実を解明することができる。

本稿は、古橋組頭惣左衛門家に所蔵される「平橋家文書」<sup>6)</sup>を用いて、古橋組における入り込みの実態<sup>7)</sup>を明らかにするとともに、それにとまなう同組の動向を考察することを目的としている。

分析の方法は、まず史料の「平橋家文書」のうち、主に普請願書・相論訴訟関係の文書から入り込みに関するものを収集した<sup>8)</sup>。次に、年代未記入のものについては、年月日が記入されているものや、人物名、居住地、印章、関連の史料などを用いて比較検討を行い、年代の推定を行った。さらに内容について検討を行い、重複しているものを削除し、得られたデータをもとに表-1、表-2を作成した<sup>9)</sup>。

## 2 入り込みの実態

本章では、表-1、表-2をもとに、入り込みのさまざまな実態をみていくことにする。

古橋組における入り込みは、約1790件の普請数<sup>10)</sup>のうち、255件（他大工組191、組内部64）と全体の14.2%を占めており、そのうち他大工組からの入り込みは、図-1に示すように18世紀前半、すなわち元禄から享保期に

集中していることが分かる。この時期は、農業生産力が向上し、その頂点に達した時期で<sup>11)</sup>、古橋組が支配する北河内においても農家の新築・修理などの需要が高く<sup>12)</sup>、建築界の好況を窺うことができる。このような社会の状況か、表-1に示すような多くの入り込みを可能にしたものと考えられる。

他大工組は、大坂・天満大工を主とする都市大工、城州や古橋組に隣接する柏田組などの農村大工に大別されるが、このうち大坂・天満大工の入り込みが圧倒的に多く、他大工組入り込み件数の90%を占めている。

地域的には、前者は入り込み先が判明する90件中、東成郡35件・茨田郡35件・讃良郡13件・交野郡7件、後者は79件中、東成郡35件・茨田郡42件・讃良郡2件・交野郡0件である。

大坂・天満大工の各郡における工事内容は、図-2に示すように民家（蔵・長屋を含む）が多く、東成郡では大坂大工30件、天満大工34件、合計64件中の約55%にあたる35件が新築である。同様に、茨田郡では71件中56件の約79%、讃良郡では11件中9件の約82%、交野郡では大坂大工のみであるが4件中3件の75%が新築である。

これらのことから、古橋組の中でも東成・茨田の二郡は新築工事の割合が高く、大坂・天満大工にとって主要な出稼ぎ場であったことが分かる。この要因として、北河内と大坂・天満との地理的な関係、街道や水運など交通網の発達、切組み<sup>13)</sup>細工などの技術の高さ、半農半工の農村大工に対して、専業の都市大工の仕事確保の努力などが考えられよう。

また、大坂・天満から遠方の交野郡では、14件中7件が大坂大工、他は田辺・山城組などで、大坂大工の活動範囲の広さと、国境に接する城州との地理的な関係が窺われる。隣接する郡境においては、柏田・豊浦組などからの入り込みがみられるか、淀川対岸の摂津国からの



表-1 他組大工の入り込み

( ) は推定

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄060826		民家	修	讃良	中野村	追手筋	無記載	徳兵衛
元禄060826		民家	新	讃良	中野村	追手筋	無記載	徳兵衛
元禄079999		民家	新	交野	片鉾村	平野町	無記載	茂兵衛
(元禄9)1016	常称寺隠居所	寺院	新	茨田	世木村	釣鐘町	(7 番組)	太兵衛
元禄099999		寺院	新	交野	藤坂村	平野町	無記載	茂兵衛
元禄100120		寺院	新	交野	田之口村	平野町	無記載	茂兵衛
元禄100199		民家	新	交野	下嶋村	唐物町	無記載	久左衛門
元禄100226		不明	不			大坂	無記載	無記載
元禄100312	次左衛門	民家	新	茨田	焼野村	天満5丁目	(23番組)	庄九郎
元禄100313	源右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満(5丁目)	23番組	五兵衛
元禄100329	長清左	民家	新	東成	善源寺村	唐物町	10番組	長右衛門
元禄100706	甚右衛門	民家	新	茨田	黒原村	天満北森町	24番組	与兵衛
元禄100714	市右衛門	民家	新	東成	善源寺村	天満空心町	22番組	八兵衛
元禄100714	九兵衛	民家	修	東成	善源寺村	天満空心町	22番組	八兵衛
元禄100722	治兵衛	民家	修	茨田	金田村	内本町	5 番組	市兵衛
元禄100722	忠左衛門	民家	新	茨田	金田村	内本町	5 番組	市兵衛
元禄100726	与次兵衛	民家	新	茨田	寺方村	天満6丁目	23番組	[ ]
元禄100803	吉兵衛	民家	修	東成	荒生村	天満5丁目	23番組	庄九郎
元禄100803	三郎兵衛	民家	修	東成	中 村	天満5丁目	23番組	庄九郎
元禄100803	市兵衛	民家	修	茨田	濱 村	天満5丁目	23番組	庄九郎
元禄100803	善左衛門	民家	修	茨田	濱 村	天満5丁目	23番組	庄九郎
元禄100803	半兵衛	民家	新	茨田	徒まえ村	天満北森町	24番組	与兵衛
元禄101212	勘右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満5丁目	23番組	五兵衛
元禄120817	宇右衛門	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2 番組	五兵衛
元禄121017		民家	修	讃良	野崎村	平野町	無記載	伊兵衛
元禄130105	九右衛門	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2 番組	五兵衛
元禄130108	市郎右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満	2 番組	彦次郎
元禄130108	甚右衛門	民家	新	東成	放出村	天満	2 番組	彦次郎
元禄140104	重右衛門	民家	新	讃良	御領村	天満5丁目	2 番組	甚兵衛
元禄140113	七左衛門	民家	新	東成	荒生村	天満5丁目	2 番組	庄九郎
元禄140819	善右衛門	民家	修	茨田	上三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄151029	新宮山	寺院	新	交野		京都	田辺組	喜左衛門・武兵衛
元禄151029	万屋吉兵衛	民家	新	交野	星田村		田辺組	喜左衛門・武兵衛
元禄150203	庄右衛門	民家	新	東成	千林村	天満	2 番組	喜左衛門
元禄150203	庄右衛門	民家	新	東成	千林村	天満	2 番組	喜左衛門
元禄150204	太兵衛	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2 番組	五兵衛
元禄150211	権右衛門	神社	新	茨田	諸福村	天満	2 番組	彦十郎
元禄150212	五兵衛	民家	新	東成	荒生村	天満(5丁目)	2 番組	庄九郎
元禄150212	七兵衛	民家	新	東成	荒生村	天満(5丁目)	2 番組	庄九郎
元禄150212	平兵衛	民家	新	東成	中 村	天満(5丁目)	2 番組	庄九郎
元禄150214	庄兵衛	民家	新	東成	友渕村	天満(空心町)	1 番組	八兵衛
元禄150217	吉右衛門	民家	修	茨田	下三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄150217	儀右衛門	民家	修	茨田	上三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄151029	庄兵衛	民家	新	交野	春日村		田辺組	喜左衛門・武兵衛
元禄160115	仁右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	(祢宜町)	1 番組	仁右衛門
元禄160729	善右衛門	民家	新	東成	赤川村	天満小嶋町	4 番組	利右衛門
元禄160729	源兵衛	民家	新	東成	榎 村	天満小嶋町	4 番組	利右衛門



発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄160729	吉郎右衛門	民家	新	東成	江野村	天満	3 番組	八郎兵衛
元禄160729	吉郎右衛門	民家	新	東成	江野村	天満	3 番組	八郎兵衛
元禄160729	吉郎右衛門	民家	新	東成	江野村	天満	3 番組	八郎兵衛
元禄160826	又兵衛	民家	新	東成	毛馬村	天満立田町	2 番組	清兵衛
元禄160899	清右衛門	民家	新	東成	中 村	南農人町	(山村組)	勘兵衛
元禄161199	治兵衛	民家	新	東成	蒲生村	(備後町 5 丁目)	11 番組	利兵衛
元禄161199	三ッ嶋村惣道場	寺院	新	茨田	三ッ嶋村	(祢宜町)	1 番組	仁右衛門
元禄170213	伊兵衛	民家	新	東成	別所村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
元禄170399	平 吉	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
宝永010812	十郎左衛門	民家	新	茨田	安田村	(祢宜町)	1 番組	仁右衛門
宝永020110	太良右衛門	民家	新	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永020121	権右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満(典薬町)	(1 番組)	彦十郎
宝永020121	与次右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満(典薬町)	1 番組	彦十郎
宝永020717	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
宝永020717	北寺方村氏神	神社	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
(宝永2)0718								
宝永020727	三右衛門	民家	新	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永030199	平兵衛	民家	新	讃良	中野村相坂	釣鐘上之町	(7 番組)	九兵衛
宝永030727	喜左衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永031225	六郎兵衛	民家	新	東成	野辺村	天満立田町	2 番組	半兵衛
宝永031225	伝左衛門	民家	新	東成	野辺村	天満立田町	2 番組	半兵衛
宝永031226	清右衛門	民家	新	讃良	中野村	天満典薬町	3 番組	彦十郎
(宝永3)1227								
宝永040111	善右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永040218	又左衛門	民家	新	茨田	世木村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
宝永040103	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満(10丁目)	3 番組	五兵衛
宝永040905	吉右衛門	民家	修	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永050130	左右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永060328	善 宅	民家	新	讃良	三箇村	大坂	5 番組	四郎兵衛
宝永060328	三郎右衛門	民家	新	讃良	三箇村	大坂	5 番組	四郎兵衛
宝永070799	孫右衛門	民家	新	茨田	上三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永070799	孫右衛門	民家	新	茨田	上三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永070820	本厳寺	寺院	新	茨田	三井村	小倉町	(4 番組)	長兵衛
宝永080104	三右衛門	民家	新	茨田	走谷村	大坂	14 番組	太兵衛
(正徳2)0307	護念寺	寺院	新	茨田	世木村	天満	4 番組	庄兵衛
(正徳2)0307	護念寺	寺院	新	茨田	世木村	天満	4 番組	庄兵衛
正徳030218	太兵衛	民家	新	交野	私部村		無記載	与四兵衛
正徳030223	紺福寺	寺院	新	東成	蒲生村	備後町 5 丁目	(11 番組)	利兵衛
正徳030512						本町 3 丁目	(10 番組)	市左衛門
正徳040216	小西五右衛門	民家	新	茨田	岸和田村	大坂	15 番組	小左衛門
正徳040216	小西五兵衛	民家	新	茨田	岸和田村	大坂	15 番組	小左衛門
(正徳4)0414	半兵衛	民家	新	茨田	梶 村	天満龍田町	2 番組	宇兵衛
(正徳4)0812	七郎右衛門	民家	新	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
(正徳4)0812	善 助	民家	修	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
(正徳4)0812	三郎右衛門	民家	修	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
(正徳4)0812	喜右衛門	民家	新	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
(正徳4)0812	重兵衛	民家	修	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
(正徳4)0812	清右衛門	民家	修	東成	毛馬村	天満龍田町	(2 番組)	清兵衛
正徳040822	七右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛



発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
正徳050629	太芳庵	庵	新	茨田	諸福村	横堤村	柏田組	作兵衛
正徳050202	小左衛門	民家	新	東成	赤川村	天満6丁目	2 番組	善兵衛
正徳050299	疋田磯之進	民家	新	東成	沢上江村	大坂	1 番組	作兵衛
正徳050299	疋田磯之進	民家	新	東成	沢上江村	大坂	1 番組	作兵衛
正徳050299	疋田磯之進	民家	修	東成	沢上江村	大坂	1 番組	作兵衛
正徳050299	疋田磯之進	民家	修	東成	沢上江村	大坂	1 番組	作兵衛
正徳060299		民家	新	茨田	出口村	大坂		九兵衛
正徳060220	三郎兵衛	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	1 番組	彦十郎
正徳060318	甚兵衛	民家	修	東成	善源寺村	天満空心町	1 番組	八兵衛
(享保2)0306	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	(3 番組)	五兵衛
(享保2)0306	与次兵衛	民家	修	茨田	北寺方村	天満10丁目	(3 番組)	五兵衛
享保020720	綿屋伊兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町(5 丁目)	(11 番組)	利兵衛
享保030128	平兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保030822	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保031212	母恩寺	寺院	新	東成	沢上江村	越中町3丁目	1 番組	市兵衛
享保040109	与次(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保040109	与次(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保041204	源兵衛	民家	新	茨田	北嶋村	大沢町	7 番組	太郎兵衛
享保041204	源兵衛	民家	新	茨田	北嶋村	大沢町	7 番組	太郎兵衛
享保041204	源兵衛	民家	修	茨田	北嶋村	大沢町	7 番組	太郎兵衛
(享保)051108	瑞塔寺	寺院	新	交野	郡津村	大宮通	十兵衛組	杵
享保050815	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保050815	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保050815	与次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保050815	与次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3 番組	五兵衛
享保061207	九郎兵衛	民家	修	茨田	打越村	北新町	6 番組	八兵衛
享保070504	深野新田会所	会所	新	讃良	深野新田	南農人町1丁目	4 番組	九兵衛
享保070504	深野新田会所	会所	新	讃良	深野新田	南農人町1丁目	4 番組	久兵衛
享保070504	深野新田会所	会所	新	讃良	深野新田	南農人町1丁目	4 番組	久兵衛
享保071126	沢上江村氏神	神社	新	東成	沢上江村	越中町(3 丁目)	(1 番組)	市兵衛
享保080404	和田寺	寺院	新	交野	禁野村	大坂		
享保080120	惣兵衛	民家	新	茨田	走谷村	道修町4丁目	15 番組	太兵衛
享保080702	佐山玄閑	民家	新	茨田	諸福村	近江町	7 番組	勘兵衛
享保080919	善源寺	寺院	修	東成	善源寺村	天満典薬町	1 番組	四郎兵衛
享保090223	弥次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満5丁目	2 番組	五兵衛
享保090307	又三郎	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	2 番組	七右衛門
享保101016	八右衛門	民家	修	東成	善源寺村	天満空心町	1 番組	八兵衛
(享保11)0826	彦(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満信保町	2 番組	利兵衛
享保120124	久右衛門	民家	新	東成	赤川村	天満7丁目	2 番組	市兵衛
享保130599						嶋下郡嶋村		嘉兵衛
享保130813	弥右衛門	民家	新	東成	野田村	天満	1 番組	伝兵衛
享保140306	伝右衛門	民家	新	交野	穂谷村	普賢寺村	山城組	宇兵衛
享保140426	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11 番組	利兵衛
享保140426	綿屋伊兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11 番組	利兵衛
享保140426	綿屋伊兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11 番組	利兵衛
享保140499						備後町(5 丁目)	11 番組	利兵衛
享保150806	母恩寺	寺院	修	東成	沢上江村	越中町(3 丁目)	1 番組	市兵衛
享保170499	勝福寺	寺院	修	茨田	諸福村	内淡路町3丁目	6 番組	平兵衛
享保201101	市村仁衛門	民家	新	讃良	尼崎新田	北渡辺町	11 番組	徳兵衛



発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元文010825	小兵衛	民家	新	茨田	今津村		柏田組	弥右衛門
元文010913	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町 5 丁目	11 番組	利兵衛
元文011199	願教寺道場	寺院	新	茨田	今津村	今津村	柏田組	五兵衛
元文021105	黄梅寺	寺院	新	茨田	門真三番村	内淡路町	6 番組	平兵衛
元文030107	市兵衛	民家	新	茨田	走谷村	道修町 5 丁目	15 番組	権兵衛
元文030318	諸福新田会所	会所	修	茨田	諸福新田	大坂	20 番組	小兵衛
元文040628	六次郎	民家	修	茨田	門真二番村	天満	4 番組	弥兵衛
元文050308	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町 5 丁目	11 番組	利兵衛
寛保010718	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町 5 丁目	11 番組	利兵衛
寛保030299	灰塚村道場	寺院	新	讃良	灰塚村		柏田組	次兵衛
(延享3)0712	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	(備後町 5 丁目)	11 番組	利兵衛
(寛延1)0914	新喜多新田会所	会所	修	東成	新喜多新田	讃岐屋町	19 番組	五兵衛
(宝暦2)0227	正願寺	寺院	修	讃良	南野村	西高津町	2 番組	吉兵衛
宝暦021225	庄兵衛	民家	新	交野	福田村	道修町 5 丁目	15 番組	太兵衛
(宝暦3)0125	船橋屋八十七	民家	新	東成	新喜多新田	北革屋町	7 番組	善兵衛
(宝暦4)0212	今木屋十兵衛	民家	修	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦040223	新兵衛	民家	修	茨田	十番村	粉川町	3 番組	宇兵衛
(宝暦4)0328	八五郎	民家	新	東成	野田村	松尾町	6 番組	武右衛門
(宝暦4)0328	八五郎	民家	新	東成	野田村	松尾町	6 番組	武右衛門
宝暦050399	今木屋太郎吉	民家	修	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦050399	今木屋太郎吉	民家	修	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦080401	新喜多新田会所	会所	新	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦080401	新喜多新田会所	会所	新	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦080401	新喜多新田会所	会所	新	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
宝暦080510	新喜多新田会所	会所	修	東成	新喜多新田	(讃岐屋町)	19 番組	五兵衛
(宝暦9)0128	太右衛門	民家	修	交野	穂谷村	普賢寺村	(山城組)	宇兵衛
(宝暦9)1004	九郎右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満(信保町)	2 番組	利兵衛
宝暦091199	菱屋九郎兵衛	民家	新	東成	野田村	天満	無記載	太兵衛
宝暦100128	正願寺	寺院	新	讃良	木間村	大坂	22 番組	吉兵衛
宝暦130320	弥次右衛門	民家	修	茨田	北寺方村	天満(信保町)	2 番組	利兵衛
明和011208	中嶋祖右衛門	民家	新	茨田	大久保村	古手町	15 番組	勘兵衛
明和020121	鮎屋七左衛門	民家	修	東成	野田村	天満	2 番組	新兵衛
(明和7)0112	小寺源兵衛	民家	修	交野	燈油村	大坂	7 番組	伊兵衛
安永071201	六左衛門	民家	新	若江	加納村		額田組	宇兵衛
天明040199	弥次兵衛(十助)	民家		茨田	寺方村	天満		
(天明7)0128	八十吉	民家	修	東成	沢上江村	折屋町	6 番組	喜兵衛
寛政120803	新喜多新田会所	民家	新	東成	新喜多新田	大坂	19 番組	五兵衛
寛政120803	今木屋太郎兵衛	民家	新	東成	新喜多新田	大坂	19 番組	五兵衛
寛政120828	新喜多新田会所	民家	修	東成	新喜多新田	大坂	19 番組	五兵衛
享和010322	和泉屋大次郎	民家	修	東成	善源寺村	大坂	大工年寄	宇田屋幸治郎
文化140817	(入り込みのみ判明)							
(文政11)0808	角堂七左衛門	民家	新	讃良		辻子村	豊浦組	権兵衛
文政130502						備後町 4 丁目	13 番組	喜右衛門
弘化020399	庄 蔵	民家	修	茨田	大久保北村	淡路町	山村組	伊 助
弘化020399	庄兵衛	民家	新	讃良	三箇村	九条本田町	(山村組)	嘉兵衛
弘化040112						古橋向寄		新左衛門
弘化050299								伝 吉
嘉永010807	三箇村天神社	神社	修	讃良	三箇村	浄覚町	13 番向寄	理左衛門
文久020613						諸口村		新 助



表-2 古橋組内部入り込み

発行年月日	文 書 内 容	訴 訟 人	被 訴 訟 人
正徳060299	得意先・他職人入込	出口村惣兵衛	石津村忠兵衛
享保050119	小組間入込	馬伏村権兵衛他	三 組
享保060211	小組間入込	祢屋村久左衛門他	山野上村伝兵衛
享保060813	得意先入込	森少路村善兵衛	南嶋村源兵衛
享保070199	作事妨害得意先入込	渚村長兵衛	中振村伊右衛門
享保091124	得意先入込	巢本村勘兵衛	堀溝村半五郎
享保130599	仲間定違反他職人入込	組 頭	諸口村指物屋次郎兵衛
明和011227	小組間入込	施主神田村重右衛門	組 頭
明和020199	小組間入込	組 頭	北嶋村伊右衛門
安永040499	小組間入込	大利村四平	大利村友右衛門
安永061204	得意先入込	組頭赤井村作左衛門	三ヶ村宇平次
安永071299	得意先入込	野田村三右衛門	浜組甚吉
天明011299	得意先入込無礼大工	組頭他	仁和寺村由兵衛
天明040199	他組大工雇	守口町六兵衛	
天明050220	仲間定違反得意先入込	組惣代五兵衛他	甲斐田村藤左衛門他
天明081099	得意先入込	福所村弥三兵衛	善源寺村八兵衛他
寛政010224	得意先入込	世木村宇右衛門	浜村三右衛門
寛政030999	得意先入込	私部村新助	中振村吉右衛門
寛政060999	得意先入込	九右衛門	黒原村平右衛門
寛政070399	得意先入込		
寛政080199	得意先入込	石津村平右衛門	郡村長兵衛・利八
寛政089999	得意先入込	平右衛門	木屋村嘉助
寛政090299	得意先入込	口村嘉兵衛	口村安兵衛
寛政091099	得意先入込	世木村宇右衛門	守口町喜兵衛
寛政100899	得意先入込	中野村伊八	打上村五兵衛
寛政110999	得意先入込	放出村喜市	諸口村長兵衛
寛政110999	得意先入込	対馬江村定七他	仁和寺村
寛政120406	違法作事得意先入込		浜村三右衛門
寛政120999	得意先入込	小路村伊右衛門	小路村四郎右衛門
寛政120406	素人大工働き	蔀屋村治兵衛	
寛政120199	違法作事得意先入込		三箇村善左衛門他
文化021199	得意先入込		野江村善兵衛
文化030199	得意先入込	大庭式番村喜兵衛	国松村平兵衛
文化040999	無役者雇	中振村茂佐衛門	
文化040211	得意先入込		中振村茂佐衛門
文化040999	得意先入込	寺方村宇右衛門	千林村庄兵衛
文化050999	得意先入込	木屋村嘉助	木屋村伊兵衛
文化060199	得意先入込	上 組	打上村五兵衛
文化070999	得意先入込	大利村喜兵衛	大利村権兵衛
文化070399	得意先入込	組頭代善七	浜村七郎右衛門
文化070399	得意先入込	江畑村与三兵衛他	川崎村新兵衛
文化080807	得意先入込	親 方	津田村伝兵衛
文化080201	得意先入込	中野村伊八他	蔀屋村三右衛門
文化101004	素人組入		
文化101125	小組間入込	後見善七	磯嶋村儀兵衛
文化100206	得意先入込	郡津村治兵衛	
文化131223	師弟争論得意先入込	黒原村常右衛門	弟子同村佐七



発行年月日	文 書 内 容	訴 訟 人	被 訴 訟 人
文政050699	仲間定違反得意先入込		北嶋村伊右衛門他
文政050299	仲間定違反得意先入込		岸和田村四郎兵衛
文政050204	得意先入込	岸和田村四郎兵衛	北嶋村忠右衛門
文政070806	得意先入込		北嶋村忠右衛門
文政100825	得意先入込		
天保120125	得意先入込	角部村長兵衛	北嶋村九兵衛
天保140599	建具職人無役大工入込		楠葉村惣兵衛
天保140302	得意先入込	野江村善兵衛	毛馬村利兵衛
天保151023	弟子印札不受無役入込	宇兵衛・松之助	
弘化020115	無役弟子働き	南野村安兵衛	
弘化040129	無役大工雇入込		北嶋村九兵衛
弘化041199	師弟相論得意先入込	守口宿長左衛門	弟子門真四番村藤七・忤
嘉永050225	他大工雇小組間入込		三嶋村五兵衛他
嘉永070199	無役大工雇入込	村野村周蔵枚方年番源兵衛	
安政020213	造宮御用無札大工入込		灰塚村定右衛門
文久010799	得意先入込		
文久020199	得意先入込		

入り込みは確認されていない。

3 入り込みの検討

本章では、入り込みを他大工組からのものと、組内部によるものに大別して検討を行う。

1. 他大工組からの入り込み

入り込みの対応 古橋組における他大工組からの入り込みは、史料上の制約から、元禄6年における大坂大工の無断入り込みと、違法作事についての訴訟によるものが初見である<sup>14)</sup>。この中で組頭の惣左衛門は、「…惣而町方より在所へ参細工仕候へハ、在所之組頭へ断申答…」と、町方の大工が農村へ出稼ぎにくる際のルールの確認を行い、無断入り込みの大坂大工に対してルールの遵守を促しているが、細工は止まらず訴訟に踏み切った。

一方堺の例ではあるが、元禄8年の定書きの中に、先に古橋組頭惣左衛門が訴えたものと同主旨のことが記されている。すなわち、

一、他国江大工共細工ニ参り候ハ、其所々之大工組

頭江我々共儀者堺何組之大工共ニ而有之由、一応相断細工可仕候、無断細工仕間敷候、此方より茂国々在々大工共江其断無之、大工共猥りニ細工致させ申間敷旨申渡置候事

とあり<sup>15)</sup>、他国へ出稼ぎに行く際のルールをみることができる。また、同9年には大坂大工が河州へ出稼ぎに行くことに対し、大坂大工年寄兵庫屋仁右衛門が古橋組頭へ事前に届けを出している例<sup>16)</sup>がみられる。

これらのことから、元禄6年以前にすでに他国や町方から在所への無断入り込みがあり、その防止対策の一環として定書きが作られたこと、正規の手続きを取れば入り込みが可能で、在地においてもそれを了承していること、これ以前にも正規の手続を踏まえた入り込みがあったことなどを窺うことができる。

元禄15年（1702）、交野郡津村安兵衛は星田・春日両村において居宅と蔵の普請を請け負い、同人とは兄弟である京都田辺組の喜右衛門・武兵衛とともに細工を行ったが、その際に組頭宛に添状を出さない無断細工であっ

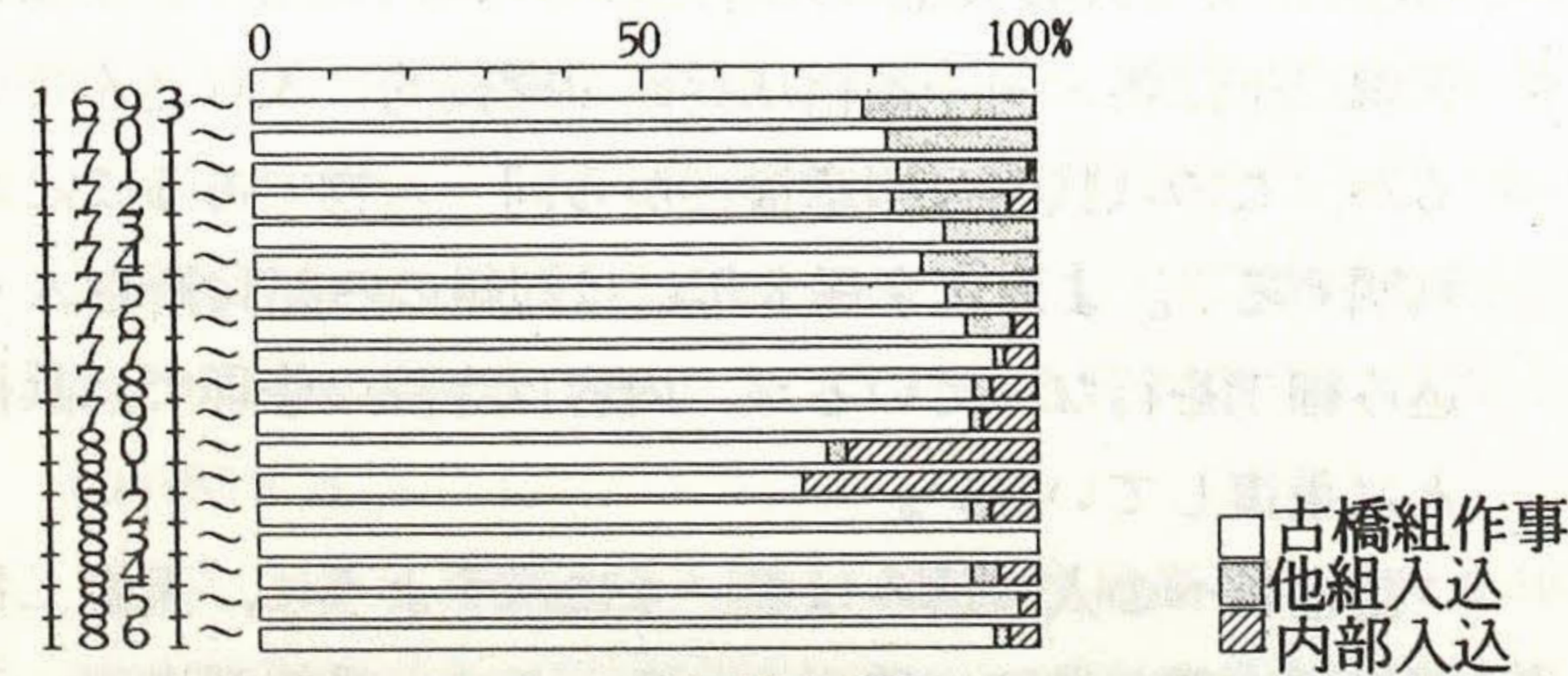


図-1 年代別入り込み分布

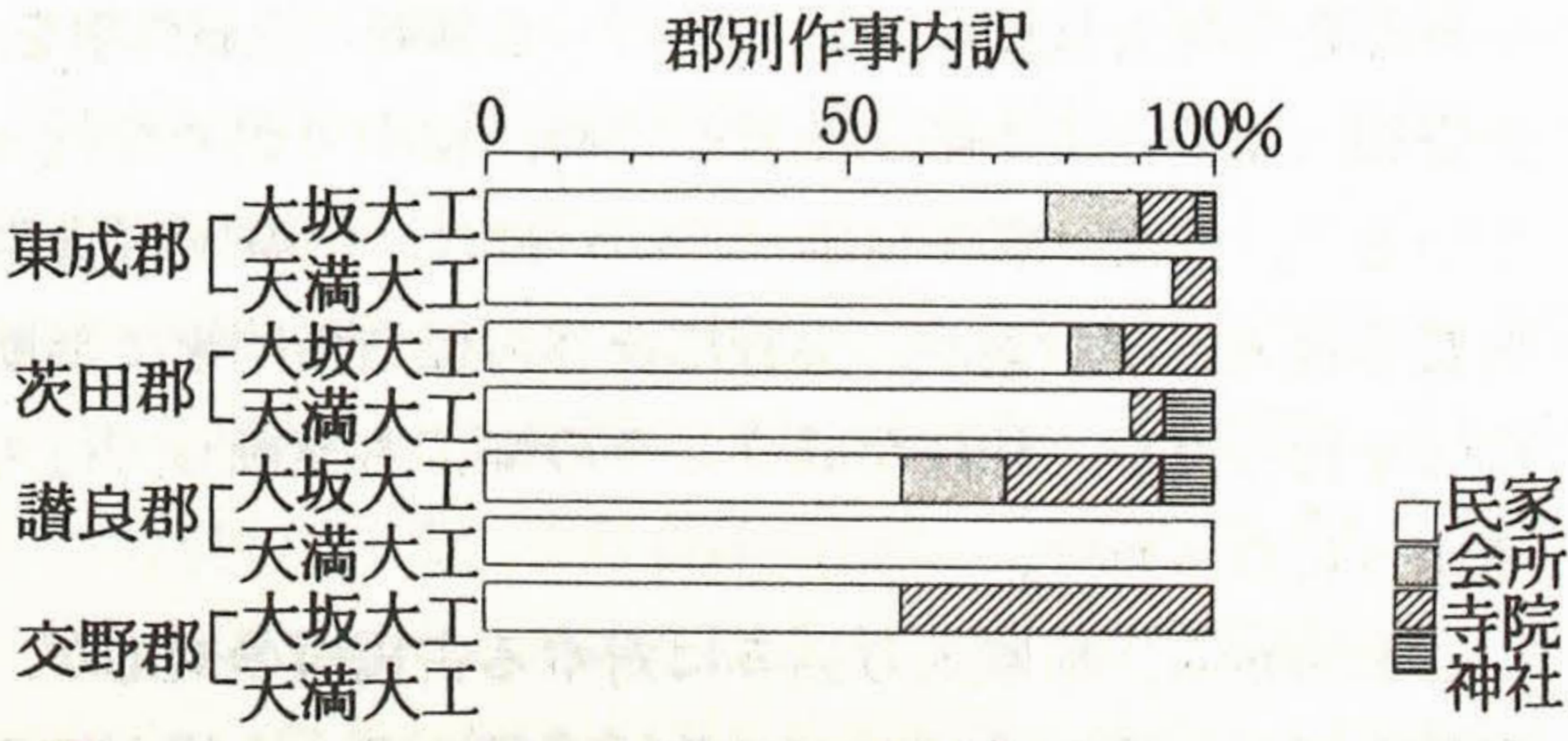


図-2 郡別作事内訳



表－3 善源寺村への入り込み

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄100329	長清左	民家	新	東成	普源寺村	唐物町	10番組	長右衛門
元禄100714	市右衛門	民家	新	東成	普源寺村	天満空心町	22番組	八兵衛
元禄100714	九兵衛	民家	修	東成	普源寺村	天満空心町	22番組	八兵衛
正徳060318	甚兵衛	民家	修	東成	普源寺村	天満空心町	1 番組	八兵衛
享保080919	善源寺	寺院	修	東成	普源寺村	天満典薬町	1 番組	四郎兵衛
享保101016	八右衛門	民家	修	東成	普源寺村	天満空心町	1 番組	八兵衛
享和010322	和泉屋大次郎	民家	修	東成	普源寺村	大坂		宇田屋幸治郎
無記載	善源寺村道場	寺院	新	東成	普源寺村	天満	1 番組	

表－4 諸福村への入り込み

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄130108	市郎右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満	2 番組	彦次郎
元禄150211	権右衛門	神社	新	茨田	諸福村	天満	2 番組	彦十郎
宝永020121	権右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	1 番組	彦十郎
宝永020121	与次右衛門	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	1 番組	彦十郎
正徳050629	太芳庵	庵	新	茨田	諸福村	横堤村	柏田組	作兵衛
正徳060220	三郎兵衛	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	1 番組	彦十郎
享保080702	佐山玄閑	民家	新	茨田	諸福村	近江町	7 番組	勘兵衛
享保090307	又三郎	民家	新	茨田	諸福村	天満典薬町	2 番組	七右衛門
享保170499	勝福寺	寺院	修	茨田	諸福村	内淡路町	6 番組	平兵衛
元文030318	諸福新田会所	会所	修	茨田	諸福新田	大坂	20番組	小兵衛

たために訴訟に発展した。当初、無断の入り込みを差し止めるために、交野郡の大工達は強行手段に出たようであるか、和談に際し「・・御断不申上、大工之道具を取、又ハ細工を押へ申儀組中私ニ仕間敷候」<sup>17)</sup>と、組頭に断わりなくこのような手段に出ないことを約束している。

正徳3年(1713)正月に、他国の大工が細工にきた際には、早速組頭へ断わりを入れること、素人で大工仕事をする者かあればやめさせること、個人か細工をしている場所へみだりに細工へ行かないことなどが組下へ通達されていて<sup>18)</sup>、入り込みの対応に苦慮している様子か窺われる<sup>19)</sup>。そして同3年2月に、山城国大工与四兵衛が交野郡私部村太兵衛家において行った無断の土蔵作事を、交野郡三組の大工が細工を差し止め、組中で改めを行っている<sup>20)</sup>。また、享保14年(1729)には、山城国綴喜郡普賢寺村大工宇兵衛が、交野郡穂谷村伝右衛門家で無断細工を行ったが、和談が成立しその細工も継続して行えるようになった<sup>21)</sup>。

これらから、無断入り込みに対する古橋組の対応が、私的な道具の取り上げなどの強行手段から、小組か細工の差し止めや改めを行い、さらに和談、細工の継続など柔軟になってきたことが判明する。しかし、在地におい

ては手続を踏まえた入り込みを了承しながらも、これにより組大工の権利が侵され争いが起きるため<sup>22)</sup>、歓迎すべきものではなかったことに変わりはない。

入り込み先 大坂・天満大工の入り込み先をみると、東成郡善源寺村、茨田郡諸福村などのように双方が入り込んでいる場合、東成郡蒲生・沢上江・赤川村、茨田郡走谷・三ツ嶋・寺方村などのように、いずれか一方の組だけが入り込んでいる場合などがあり、郡や村によって入り込み先が異なっていたことが窺われる。

善源寺村への入り込みは表－3に示すように、元禄10年(1697)の大坂十番組長右衛門以後は、享和元年(1801)まで大坂大工の入り込みはみられず、その間は天満二十二番・同一番組八兵衛が継続的に入り込んでいるか、この八兵衛は印章などから同一人物であることが判明する<sup>23)</sup>。また、享保8年には同組の四郎兵衛も入り込み細工を行なっているか、内容は寺院の修理で八兵衛とは重複していない。

諸福村への入り込みは表－4に示すように、天満二番組の彦次郎が最初に確認される。この二番組彦次郎・彦十郎、一番組彦十郎は同一人物で、元禄15年には二番組に、3年後の宝永2年(1705)には一番組に、さらに翌



表-5 三ッ嶋村への入り込み

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄140819	善右衛門	民家	修	茨田	上三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄150217	吉右衛門	民家	修	茨田	下三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄150217	儀右衛門	民家	修	茨田	上三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄160115	仁右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
元禄161199	三ッ嶋村惣道場	寺院	新	茨田	三ッ嶋村	祢宜町	1 番組	仁右衛門
宝永020110	太良右衛門	民家	新	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永020727	三右衛門	民家	新	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永030727	喜左衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永040111	善右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永040905	吉右衛門	民家	修	茨田	下三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永050130	左右衛門	民家	新	茨田	三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永070799	孫右衛門	民家	新	茨田	上三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛
宝永070799	孫右衛門	民家	新	茨田	上三ッ嶋村	大坂	1 番組	庄兵衛

年には三番組に所属している<sup>24)</sup>。つまり、二番組（居住地不明）→一番組（典薬町）→三番組（居住地不明）→一番組（典薬町）と所属が異なっている。二番組の範囲<sup>25)</sup>から推して、転居によるものと推察されるが、所属が替わっても入り込み先は変わらず、彦次郎は元禄13年から正徳3年まで同一家を含めて、同村において4軒以上の入り込み先をもっていた<sup>26)</sup>。

大坂十四番組太兵衛も、転居によって所属が替わった例で、宝永8年に、十四番組<sup>27)</sup>に所属して走谷村三右衛門家において新築工事を行ない、享保8年には、道修町4丁目に居住して十五番組<sup>28)</sup>に所属し、同村惣兵衛家において新築工事を行なっている。

同一組の大工が継続的に入り込む例として、表-5・6に示すように三ッ嶋・寺方村を掲げることかできる。三ッ嶋村では、大坂一番組仁右衛門が元禄年間に入り込んだ後へ同組の庄兵衛が入っている。仁右衛門の出入り先<sup>29)</sup>であった善右衛門・吉右衛門家でも仕事を行っていることから、庄兵衛が出入り先を譲り受けたと推察されるが、その手続きなどの詳細については不明である。

寺方村にみられる五兵衛は同一人物で、天満二十三番組（天満5丁目）→二番組（天満5丁目）→三番組（天満10丁目）→二番組（天満5丁目）と、組と居住地を替わりながらも同一村で27年間にわたり仕事を行っている。五兵衛の後には、同人か最後に所属した二番組の利兵衛<sup>30)</sup>が入っていることから、入り込み先が譲られたことが判明する。

また、表-7に示す大坂十一番組利兵衛は、享保2年から延享3年までの29年間にわたり綿屋伊兵衛家の仕事を請け負っているが、新築が2件と少なく修理が多いのは補修点検のためであろう。

組替わり・和談 元文元年（1736）11月、柏田組に所属する茨田郡今津村の五兵衛<sup>31)</sup>か、同村願教寺道場の普請に際し、修復願を出さなかったために出入りが起きた。その際に、京都の橘屋九兵衛の仲裁で和談が成立し、今後柏田組は今津村において一切の細工を行わない旨の取り決めを行っている。つまり、河州茨田郡に属する今津村は元来古橋組の支配下にあったか<sup>32)</sup>、現実には柏田組五兵衛のように組違いの大工も居住していたため問題が生じ、橘屋の仲裁和談により同村は古橋組単独の支配場であることか確認された。なお、五兵衛は明和5年（1768）に古橋組へ移っているが、その手続きなどについての詳細は不明である。

安永7年（1778）に、柏田・古橋組の立会い働き場所である加納村へ、額田組大工宇兵衛が無断で入り込み、橘屋九右衛門の取り扱いによって和談が成立した<sup>33)</sup>。その結果、額田組に所属する大工が加納村で少々の細工でも請け負えは、両組へ届け、それ無しには立ち入らない旨を確認するとともに、宇兵衛が柏田組支配下の加納村に居住するときには、「任先例柏田組江与替」えの約束をしている。先記の五兵衛がその先例に当たるのであろうか。ともあれ、支配下の村に他組の大工が居住することをさけ、仕事場を明確にし、問題の発生を未然に防ごうとする努力は窺えよう。

訴訟の解決には、古橋組の大工が上京した際の定宿である橘屋などが仲裁に入り、和談の手間を取っているのは注目される。仲介者について、同じ組の「大工同志が出入場をめぐる相論を起こすことは組内混雑の因になる」ため、穏便な処理を行うために立てたという指摘があるが<sup>34)</sup>、双方熟知の第三者の介入は、組が異なる場合でも同様の効果が期待されたのではないかと推察される。



表-6 寺方村への入り込み

( ) は推定

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄100313	源右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満5丁目	23番組	五兵衛
元禄100726	与次兵衛	民家	新	茨田	寺方村	天満6丁目	23番組	[ ]
元禄101212	勘右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満5丁目	23番組	五兵衛
元禄120817	宇右衛門	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2番組	五兵衛
元禄130105	九右衛門	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2番組	五兵衛
元禄150204	太兵衛	民家	新	茨田	寺方村	天満5丁目	2番組	五兵衛
元禄170399	平 吉	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
宝永020717	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
宝永020717	北寺方村氏神	神社	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
(宝永2)0718	与二兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
(宝永2)0718	北寺方村氏神	神社	修	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
宝永040103	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
正徳040822	七右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
(享保2)0306	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
(享保2)0306	与次兵衛	民家	修	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保030128	平兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保030822	与次兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保040109	与次(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保040109	与次(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保050815	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保050815	吉兵衛	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保050815	与次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保050815	与次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満10丁目	3番組	五兵衛
享保090223	弥次右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満5丁目	2番組	五兵衛
(享保11)0826	彦(兵衛)	民家	新	茨田	北寺方村	天満信保町	2番組	利兵衛
(宝暦9)1004	九郎右衛門	民家	新	茨田	北寺方村	天満信保町	2番組	利兵衛
宝暦130320	弥次右衛門	民家	修	茨田	北寺方村	天満信保町	2番組	利兵衛
天明040199	弥次兵衛(十助)	民家	新	茨田	寺方村	守口町		六兵衛

表-7 蒲生村への入り込み

( ) は推定

発行年月日	寺社・家主名	建物	新築	郡	村	住 所	組 名	大 工 名
元禄161199	治兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
正徳030223	紺福寺	寺院	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
享保020720	綿屋伊兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
享保140426	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
享保140426	綿屋伊兵衛	民家	新	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
元文010913	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
元文050308	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
寛保010718	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
(寛保1)0719	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛
(延享3)0712	綿屋伊兵衛	民家	修	東成	蒲生村	備後町5丁目	11番組	利兵衛

他職人の参入 正徳6年(1716)に、大坂居住の舟大工久兵衛が茨田郡出口村で家細工を行って訴えられた<sup>35)</sup>。同人は、茨田郡石津村大工忠兵衛の弟で、兄はそのことを承知しており、また兄忠兵衛も法度の舟細工を行って

いた。

享保13年(1728)に、茨田郡諸口村の指物屋で戸屋も兼ねている次郎兵衛が、同村の七右衛門家一軒の普請を請け負ったが、「大工職を奪ひ不屈き…」として、細工



を差し留められたが、その後へは組内の大工を遣わして、普請を完成させている<sup>36)</sup>。

文化14年(1817)に、大坂の宮殿・仏壇屋が撰・河州において氏神小祠を販売<sup>37)</sup>し、大工の職域を侵している。

このように、大工職以外の入り込みもみられ、その多様さを窺うことができる。

## 2. 組内部での入り込み

組内部における入り込みは、255件の入り込み総数のうち表-2に示すように64件と4分の1を占め、その時期は概ね宝暦期(1761年)以降に多く、他大工組からの入り込みが減少するのに対応している。その内容は、小組が関係するものや得意先譲りによるもの、弟子が師匠の得意先に入り込む場合などさまざまで、訴訟に発展する場合や詫状を差し出して和談する場合など、その対応も多様である。ここでは、小組が関わる場合の事例から検討を行う。

**小組が関わる場合** 享保6年(1721)に、山之上組に所属する大工伝兵衛が、養子先の交野郡私部村において細工を行ったが、私部組や星田組から組違いであると訴えられ、星田組へ入るか否かの選択をせまられるが、同組へは入らずに帰村している<sup>38)</sup>。

明和2年(1765)に、馬伏組仲間の働き場所である茨田郡神田村へ、三ヶ組に所属する北嶋村伊右衛門が無断で入り込み細工をしている<sup>39)</sup>。同人の入り込みはこれが初めてではなく、馬伏組の方が「了簡を以下済ニ致」してきたが、今回は訴訟に踏み切っている。

同8年に、中野村組の働き場所である讃良郡中垣内村で三ヶ組所属の赤井村作右衛門<sup>40)</sup>が入り込み細工を行い、訴訟に発展したが<sup>41)</sup>同村の弥三兵衛の仲介によって内済した。同村は、中野村組の働き場所<sup>42)</sup>であったが、その内の15軒は作右衛門の得意先であることが判明する。すなわち、一村を異なる小組が働き場所にしていたが、中垣内村が中野村組の働き場所と決まる以前に、三ヶ組の大工作右衛門が中垣内村で得意先を持っており、それを中野村組が追認したものと推察され、施主と大工の関係が優先していた。

安永4年(1775)に、「讃良郡四人組」の働き場所の大利村で、施主が同組へ断わりもいれずに高柳村喜八を雇い土蔵の普請を行っているが、その訴えの中で、小組の仲間意識的なものが窺われる<sup>43)</sup>。

同8年に、浜組に所属する大工甚吉が、野田村三右衛門の得意先へ入り込んで訴えられた<sup>44)</sup>際に、甚吉は舟大工も兼ねていると指摘された。そのため「組入之節職法相背間敷証文」を取っていない落度を認め、組中で印形を添えた一札を組頭へ差し出している<sup>45)</sup>。また、他の得

意先へ不法に入り込みを行った場合には、組中で吟味し<sup>46)</sup>、互いに背かないようにしている。組入りなどに関しては小組として責任を負うが、それか構成員相互の監視になって行くのではないかとと思われる。

文化10年(1813)に、山寄向寄(小組)に所属する藤坂村大工安右衛門と、渚向寄に所属する磯嶋村大工儀兵衛が互いの得意先へ出入りし合い争いが生じている<sup>47)</sup>が、その際に向寄総代も関わっている。

以上のことから、小組が関わる場合には、仕事場に関する縄張り意識や仲間意識が窺えるとともに、構成員の不始末を連名で詫ひるなど、小組にも組としての同業者仲間的な性格が付帯されてきたのではないかと推察される。

**得意先譲り** 天明3年(1783)に、茨田郡諸福村を得意先とする弥惣兵衛と、その得意先を預かっている村方大工の吉兵衛との間で、雇った大工の人選の件で出入りが起きた<sup>48)</sup>。また、文化4年(1807)には、死去した森少路村安兵衛の得意先である千林村を預かっていた寺方村宇右衛門<sup>49)</sup>が、村方から依頼されて細工を行った同村大工の庄兵衛を訴えている。これらは、村方大工が他村の大工の得意先を預かる場合、他村の得意先をさらに他村の大工が預かる事例であるかその際には、「諸掛り入用等」も預かった者が負担した<sup>50)</sup>。

寛政11年(1799)に、守口町大工喜兵衛が得意先である同町魚屋又兵衛家を同町大工太助へ銀10匁で譲っている<sup>51)</sup>。また、同年に対馬江村大工定七・重兵衛は、仁和寺における「故障」の際に、諸入用銀110匁7分を負担し、仁和寺村へ出入りする権利を得ている<sup>52)</sup>。

このように、得意先については、施主の意向よりも大工同士の都合が優先し、村方や居村大工などの意向が反映しない場合があるか、それは入り込み先を預かる大工が入用などを負担するという、金銭関係によるものであるからだと考えられ、得意先か単なる仕事場以上の価値を持ち、譲渡の対象になるとともに、入用を負担してまで仕事先を拡大しようとする大工の姿勢をかいまみることかできる。

**師弟相論** 寛政6年(1794)に、茨田郡黒原村において、先祖・祖父にまで遡る大工の職筋を含めた得意先の出入りがあった<sup>53)</sup>。これは、師弟関係の確認と、茨田郡黒原村一村40軒を得意先であると主張する市兵衛と、10軒は自分の得意先とする平右衛門の出入りである。後者と同村の七兵衛家との間には、30年以前からつきあいがあり、得意先と出入り大工との長期にわたる信頼関係が窺われるとともに、書状で弟子筋に当たるとされた大工平右衛門の倅小兵衛の名前がみられることから、得意先



が親から子へも譲られていることか判明する。

師弟の関係についてみると、天明6年(1786)には、弟子か大工として組入りする際に職法を守るとともに、「一南野村之儀者、神社・仏閣共親方重兵衛致被来候得者、何不寄気兼ニ一切立入申間鋪…」と、師匠の得意先へ立ち入らない旨を明記している<sup>54)</sup>。

寛政期では、弟子の年季が明けて組入りする際に一札を入れているか、それには組定めを守ることや、他組にも指構えか無いことなどが明記されている。弘化4年(1847)には、別家した弟子か師匠の得意先へ無断で入り込み、訴訟されている<sup>55)</sup>。

独立すると弟子であろうとも同業者と見られるからか、金銭や親子間による得意先の譲渡はあっても、師弟間ではみられない。

### 3. 入り込みと小組

ここでは、小組の配置と入り込みについて検討を行う。

安永8年に見られる古橋組の組織は、享保4～17年にそれぞれの小組か成立・分立などして出そろっていた<sup>56)</sup>。これは安永8年ごろの向寄編成の原型が、元文3年には成立していたとする<sup>57)</sup>よりもさらにさかのほるものであるか、享保5～6年ごろに組内か13の小組に分かれていた<sup>58)</sup>ことを考慮すると、組織の成立には小組の統廃合などによる若干の曲折があったことか窺われる。

元禄から享保期にかけて多くみられた他大工組からの入り込みの対応として、地元からの中井家への訴えは元禄6年にはすでに確認され<sup>59)</sup>、その後も繰り返し行われるが、思うような効果が表れていないことは、その後の入り込みか減少していないことから明らかである。そこで、古橋組では中井家へ訴える一方、私的に道具の取り上げや細工の差止めなどを実施しているが、正徳3年には組中で行うようになっていく<sup>60)</sup>。

以上のことから、小組の存在か確認される正徳2年には、小組単位の活動が行われていたと考えられる。つまり、正徳2年ごろに成立していた小組は、享保4～17年の間に整理・統合されて確立し、元文3年に地域を上・下に分けて効率的な組の運営を行なうようになった。

また、元禄から元文3年までの他大工の入り込み先をプロットした地図に、元文3年時点での小組の配置を重ねてみると、図-3に示すように、概ね入り込みの多い地域に小組が確認される。この入り込みの多い地域は、仕事も多く地元の大工も居住していたから、他組大工との紛争が生じ、それに対して小組の構成員もまとまって対応することなどで、小組内部に同業者仲間的な性格も芽生えたのではないかと考えられる。

また、時代は下がるが、寛延頃に野田組から榎並組が

分立した。分立の原因は、野田組内部の問題によるものであるが、年寄善左衛門は新組(榎並組)を設けることでその解決を計っている。このように意図的に小組が配置されることもあった。

以上のことから、小組の組み方については、地域的なもの、気のあった者同士が組むなどの自由性<sup>61)</sup>の他に、意図的に設けられた場合もあり、その性格も同業者仲間的な性格を帯びたものが現れるなど、小組の機能の多様化を窺うことができる。

### 3 まとめ

古橋組における入り込みを分析・検討することによって得られた事項を、要約することによってまとめとしたい。

#### 他大工組の入り込みについて

時期的には、元禄6年以前から享保期までに多くみられ、無断入り込みの防止対策の一環として定書きが作られたが、正規の手続を取れば入り込みは可能で、農村側もこれを了承していた。

古橋組の普請は民家の新築・修理が多く、その要因として元禄期以降の農業生産の向上と発展、それにとまなう需要などが考えられる。

大坂・天満大工の入り込みは、地域から近くてかつ水陸の交通に便利な東成・茨田郡の村々に多く、東成郡の周辺部や茨田郡の内部にまでおよび、普請内容は民家の新築の割合が高い。城州からの入り込みは交野郡のみで、国境や街道沿いの村に集中しており、その時期は、元禄から享保期で、他郡における大坂・天満大工の入り込み時期と一致する。隣接する大工組からは、柏田組からの入り込みが最も多く、他には額田組などかみられる。

入り込みは排除の傾向にあり、元禄期には個人的に道具の取り押さえや、細工の差し止めなどが行われていたが、正徳3年には組中で行うようになり、さらにその細工に限り普請を認めるなど、組の対応にも変化が窺える。

入り込み先は、概ね村ごとに分かれていて、組や居住地が替わっても入り込み先は変わらない。同一家に長期的に入り込んだり、同一村へ他組の大工が入っても時期が異なっていたり、入り込み先を譲られる場合など、出入り関係の複雑さを窺うことができる。

訴訟などの問題の解決にあたり、穏便な処理を行うために橋屋などが仲裁に入ったと考えられる。

他組の大工が古橋組支配の村に居住している場合には、古橋組への組替えが行われている。古橋組支配場所は、茨田・讃良・交野郡と東成郡の一部といわれていたが<sup>62)</sup>、立会いとはいえ若江郡にもあった。





図-3 小組配置と入り込み状況

舟大工や指物師によるものが、大坂・天満大工と同様に正徳・享保期にみられ、入り込みの多様さを示している。

#### 組内部の入り込みについて

働き場の確保という利害に関係するので、その確認のために訴訟に発展するケースが多い。

京都と同様<sup>63)</sup>に、ある小組内に他組の大工が得意先を持っていた場合か判明するが、個人の既得権か追認され、施主と大工個人との関係が強いことが窺われる。組入りなどに際しては、小組が責任を持っていた。

得意先を他村の大工が預かる場合には、諸入用の負担も行う場合、金銭で譲り受ける場合などがあり、得意先は、施主と大工との関係を越えて、金銭などによる譲渡の対象になっていて、単なる仕事場以上の価値が付加されていた。また、金銭を負担してまでも入り込みの権利

を獲得するなど、永続的な仕事の確保に苦勞した大工の姿をかいまみることかできる。

年季が明けた新規の大工は、親方の得意先へは入れないので、師匠とは異なる村へ引越す場合がある。このように、出入り大工のいない村へ大工が入ることによって、在地の大工人数が増加して行く原因の一つになったのではないかと考えられる。

古橋組の小組には、さまざまな組み方や、同業者同間的な性格が付与されてきたことが窺える。

#### 注

- 1) 川上貢「近世における大坂町方大工と在方大工」(日本建築学会論文報告集第423号, 平成3年5月)
- 2) 渡辺勝彦『江戸時代後期の大坂における大工組に関する研究』日本工業大学研究報告別巻第2号, 昭和53



年

- 3) 日向進「大工<近江屋吉兵衛>とその営業形態」川上貢編『近世建築の生産組織と技術』所収, 中央公論美術出版, 昭和59年
- 4) 永井規男「播磨と淡路の集住大工について」前掲『近世建築の生産組織と技術』所収
- 5) 永井規男「近世大坂大工宮屋とその営業形態」(日本建築学会論文報告集第390号, 昭和63年8月)
- 6) 『平橋家大工組文書目録』ならびに写真史料門真市史編纂室編, 平成元年3月
- 7) 古橋組の入り込みについては, 「平橋家文書」を用いて川上博士が前掲1)で論考されているが, 史料中には川上博士が用いられたもの以外にも入り込みを示すものが多くみられる。本稿では, 年代未記入のものも含めてより多くの情報を収集し, 分析を行った。
- 8) 文書の内容から入り込みと判断されるものは, すべてその対象として扱った。
- 9) 表中の( )は推定。発行年月日欄の数字は年月日を示し, 不明なものは処理上「99」を記入した。同一年月日, 同一大工などによるものは重複ではなく, 例えば本宅と長屋などのように別工事のものである。
- 10) 総数は1845件であるが, 普請願書と相論関係史料の合計から年月不詳なものを除外した数値である。ただし, 一紙文書の残存状況が明確でないため, これが古橋組における全普請数とは断言できないが, 概略の傾向を知ることはできると考えられる。
- 11) 『新修大阪市史第3巻』新修大阪市史編纂委員会, 平成元年3月
- 12) 古橋組における元禄期の普請をみると, 総数185件のうち, 農家は154件(新築50件, 修理104件)と多数を占めている。
- 13) 前掲6)『平橋家大工組文書目録』組関係一紙(以下組一紙と略記)28「乍恐口上書ヲ以御訴訟申上候」, 同32表題無し。なお, 切組みについては, 前掲5)永井論文が詳しい。
- 14) 組一紙27「乍恐以口上書申上候」
- 15) 「堺南北大工仲間定書」『堺市史第6巻』
- 16) 前掲6)『平橋家大工組文書目録』普請願書(以下普請願書と略記)1180。この史料の年代は, 年寄名と干支から元禄9年と推定される。
- 17) 組一紙34「乍恐指上申一札之事」
- 18) 組一紙40「定」
- 19) 組一紙28「乍恐口上書ヲ以御訴訟申上候」では, 中井家に対し, 入り込みによる交野郡大工の窮状を訴えている。組一紙32表題無し

- 20) 組一紙41表題無し
- 21) 組一紙84「一札之事」
- 22) 前掲1)川上論文
- 23) 前掲1)では, 編成替え以後の一番組の範囲として典薬町が示されているが, 八兵衛の居住地から空心町も含まれていたことが判明する。
- 24) 普請願書1168。入り込み先が讃良郡中野村であるため, 表-4には記載されていない。
- 25) 前掲1)によると, 二番組の範囲は天満5丁目・同7丁目, 竜田町である。
- 26) 同人は, 同村の他に東成郡花知出(放出)村, 讃良郡中野村も入り込み先にしている。
- 27) 太兵衛の居住地は不明であるが, 前掲1)によると十四番組は平野町である。
- 28) 十五番組の範囲には道修町4丁目の他に, 表-1より5丁目も含まれることが判明する。
- 29) 同人は, 同村の他に茨田郡安田村も入り込み先にしている。
- 30) 同人の居住地から, 天満二番組には天満5丁目の他に信保町も含まれていたことが判明する。
- 31) 組一紙92「一札之事」
- 32) 吉田高子『中井役所支配六箇国大工組の構成形態と変遷に関する研究』, 昭和62年
- 33) 組一紙158「一札」
- 34) 前掲3)日向論文
- 35) 組一紙49「書付ヲ以御断申上候」
- 36) 組一紙79「乍憚書付を以申上候」
- 37) 組一紙316「乍恐奉願上口上書」
- 38) 組一紙59「乍恐以返答書申上候」  
同補189「乍恐口上書を以申上候」
- 39) 組一紙144「乍恐書付を以奉願上候」  
同145「乍恐書付を以御断申上候」
- 40) この時点での所属は不明であるが, 前掲6)『平橋家大工組文書目録』組関係冊子3(以下組冊と略記)より推定した。
- 41) 組一紙149「一札之事」
- 42) 史料文中では, 「…中垣内組と出入ニ及…」とあるが, 中垣内組はこれまでにみられなかった組名で, これは, 川上博士が指摘された「組内の村単位のもの」と考えられ, 安永8年の組冊3によると, 中垣内村は中野村組に所属していることから, 中野村組と推定した。川上貢「古橋大工組にみる大工職人の地域的分布と向寄の変遷」大阪産業大学論集社会科学編, 87号, 1992年3月
- 43) 組一紙151「乍恐口上」, 同152「乍恐書附ニ而奉願



候」喜八については所属の組が確認できない。「…御上江之忠義、組会江之面目少シ成共…」 「…第一組会之作方者一切わかちなく…」とある。

- 44) 組一紙159「乍憚口上」
- 45) 組一紙160「一札之事」
- 46) 組一紙161「一札之事」
- 47) 組一紙303「乍恐奉願口上書」
- 48) 組一紙164「乍恐済状」
- 49) 組一紙243「一札之事」
- 50) 組一紙251「一札之事」
- 51) 組一紙215「一札之事」。同328では、3分で譲っている。
- 52) 組一紙216「差出シ申一札之事」

- 53) 組一紙190「奉指上返答」
- 54) 組一紙171「一札」, 同173「一札」
- 55) 組一紙423「差入申一札之事」
- 56) 前掲42) 川上論文
- 57) 前掲1) 川上論文
- 58) 前掲組一紙補189
- 59) 前掲組一紙27
- 60) 前掲組一紙41
- 61) 拙稿「河州古橋大工組における安永8年以前の小组について」(日本建築学会近畿支部研究報告集, 平成3年度)
- 62) 前掲32) 吉田論文
- 63) 前掲3) 日向論文

(平成4年10月12日受理)

### Summary

Furuhashi carpenter's party attracted many carpenters living nearby, including those in Osaka. This paper analyzes, reading 'The Hirahashi's Documents', the actual conditions of 'Visiting Work(Irikomi)'

Main contents are given as under.

- (1) Visiting work of carpenters from Osaka and Temma.
- (2) Visiting work of carpenters from other region and other parties.
- (3) Visiting work of workmen from other occupations.
- (4) Visiting work within the 'Party'.
- (5) The structure of 'Kogumi' and its relations with visiting work.